



2015年7月25日 特別公開講座
講師 夏瑛先生

A先生の新語コーナー

10.17



fú pín rì
“扶贫日”

貧困扶助デー。中国は毎年10月17日を貧困扶助デーとすることを決定した。この日が「貧困撲滅のための国際デー」(1999年12月の国連総会で宣言)となつてゐることに合わせたもので、昨年からは始まつた。中国の貧困扶助基準は1986年が年収2006元で、2010年に1274元となり、さらに2011年末には2300元と大幅に引き上げられた。現在の基準によれば、年収がこの金額を下回る貧困人口は8000万人余りいると言われる。

(A)

2015年5月16日(土)に特別公開講座第1回目として、講師に日中友好会館理事長 武田勝年先生をお招きして、「中国で働く楽しみ」と題してご講義頂きました。

武田先生は、大学時代に第二外国語で中国語を勉強され、日中学院別科にも通学されたことがありという大先輩です。大学卒業後に入社された三菱商事では、退職されるまでの30年にもわたり中国関係のお仕事をされ、そのうち16年は中国に駐在されていらっしゃいました。その長いお仕事から、大変興味深いお話を伺うことが出来ました。

当日は39名の受講生が参加し、講義終了後は多くの質問が寄せられるなどしました。

講義では、まず中国で仕事をす土台になる大局をつかむ重要性について分かりやすく実例を挙げながらお話し頂きました。

大局を掴むうえで重要なのは、中国の統治機構、長い歴史について、今ではGDPで日本の二倍以上になった経済大国であること、多民族国家であること、この四つの大きな特徴の基本的な部分については、ある程度理解する必要があるとの事でした。さらには、日中間で交わされた、四つの基本文書(①1972年日中共同声明、②78年日中平和友好条約、③98年日中共同宣言、④2008年日中共同声明)についても、その時代にどんな背景でどんなことが書かれているのか、時間があれば見ておくと、仕事の上では非常に参考になるとのことでした。

その次にお話し頂いたのは、現在の中国で仕事をする上で重要となることは、改革開放から高度経済成長への流れを知る事です。五年に一度行われる中国共産党大会では、様々な事が決まります。特

特別公開講座報告

『中国で働く楽しみ』

講師：日中友好会館
理事長 武田勝年

に1978年の改革開放から今日現在までの大きな社会の流れ、経済の動きを、党大会の発表されたキーワードで把握しておくとは分かりやすいと、時代ごとにキーワードを取り上げながらご説明頂きました。

次にお話し頂いたのは、同じ働くなら中国で楽しく働く際に、より多くの中国の方と仲良くするためにどうしたら良いかについてです。それには、中国の人間関係を理解することも必要だそうです。

中国の人間関係は、日本とは全く異なると言われるそうです。武田先生が、中国のご友人から贈られた言葉をご紹介頂きながら、その特徴についてお話し頂きました。ご友人の言葉とは、日本の人間関係の基本は“和”であるのに対し、中国の人間関係の基本は“闘”だと。“和”と“闘”だと基本的な考え方が全く異なり、“闘”が悪い“和”が良いということではなく、基本的な関係が日本とは全く異なるそうです。ご友人の言葉通り、武田先生ご自身も中国に居るとなんとなく緊張感を感じられるそうです。さらに、老朋友などと言う言葉が生まれる背景には、やはり中国の人間関係は厳しいのだと見受けられるとのことでした。中国では親戚や、本当に信用できる相手でない限りは、表面的にいかにか親しくても人間関係で必ず何かあった時にある程度の距離を必ず保つというのが、中国の方の基本的な考え方であり、そのような緊張した人間関係の中で、中国の人は生活しているのだろうと先生は考えられて

います。

次に、友達（朋友）という言葉は、日本とは少し異なるようです。チームを組んだり、パートナーとして仕事をする上でまず大切な事は、「先交朋友后做事（まず友達になろうよ。友達になったうえで何かやろう）」と言うのが中国の方々の基本的な考え方だそうです。

次は、個人主義と現実主義についてです。中国の人は非常に個人の力が強く、能力が高いと感じられるそうです。武田先生ご自身も、中国の人と話をされるとそれを感じられるそうです。さらに、個人的な能力は優秀な人が大変多いとのことでした。ただ、チームを組む場合などは、なかなか力を発揮する事が出来ない場合が多いそうです。それに対して日本人は、チームを組む何かを行う場合は、我慢して仲良く協力していくことが得意だそうです。中国の多くの大企業はアメリカ式のトップダウンです。日本のように、下から話を徐々に進めて行くのでは話はなかなか進まないそうです。それは素晴らしい即断即決のメカニズムが働いていて、個人の力が非常に強いというところに繋がっているようです。さらに、中国の方は非常に現実主義だそうです。それは、日本人が想像できない位、現実に厳しいと言うか現実主義だそうです。以上のような、中国の人間関係をお話いただきながらご紹介頂きました。

最後に、中国で楽しく働こうということについてお話し頂きました。先にお話し頂いたように、中国は人間関係も厳しいようですが、マーケットもとても厳しいようです。事業を成功させる場合、きちんと縦のライン

と揃っていないと、なかなか上手くいかないそうです。中国で楽しく働くからには、成功することが楽しいはずで、成功するにはどうしたらいいのかについて、お話しいただきました。

中国ではマーケットは厳しいために、自社の強み、例えば、技術力・販売力・ブランド力等をきちんと把握し、チームが同じ意識を持っている必要があるそうです。何で戦うか明確にしていなければ、事業は上手くいきません。

また、中国の法律は、非常に厳しくきちんとしています。ですから外国人である限り、その国で仕事をする際には、慎重すぎる程、順法精神をもって仕事をする必要があります。さらには、人材の問題です。事務所にしろ、合弁企業にしろ中国人と日本人、基本的に人材のミックスで仕事をします。それぞれの国民性によって、得意、不得意が異なります。それを上手く組み合わせる必要があります。日本人だけでは、必ずうまくいきません。しかし、日本のことを良く知る、在日経験の長い中国人スタッフに一任しても、成功するケースは少ないそうです。日本でよく言われる報連相(ホウレンソウ)。報告、連絡、相談です。これは日本式の企業文化の良いところだそうです。しかし、この報連相(ホウレンソウ)は、中国で受け入れられるのは、難しいようです。そのため、昔から報連相に替わるものは中国で言われていることがあります。それは一まず、何故この仕事をこの順序でするのかと、責任者が説明し、説明に基づいて、明確な指示を与えること。指示通り動いているかそうではないかを、き

ちんと評価し、それをフィードバックする。そのような関係でないとなかなか中国の人は逆に言えば働きにくいようです。そこに日本式の報連相をどのように取り入れていくかは難しいことのようにですが、中国で働く場合、企業の中でやっていく必要があるとのことでした。

また頼りがいのある同僚や上司を努力して作っていくことも非常に大切だそうです。いくら日本人が、中国の法律や歴史を一生懸命勉強したとしても、それを外国人である日本人に聞きたいとは中国人は思っていないそうです。中国の方が聞きたいと考えているのは、日本の問題だそうです。ですから、正しい、正しくないは別にして、きちんと答えられるだけの、日本についての知識や見解を持っていることが非常に大切だそうです。きちんと答えることで相手から見て、この日本人なかなか物を良く知っていると、頼りになるなど評価が得られるようです。逆に何を聞いても、あまり要領を得ない解答ばかりすると、中国人はがっかりするそうです。日本について特定の分野なら、話しが出来るほうが、中国人がから見ると、良く勉強している日本人だということになる、それが楽しく働く一つのベースになるとのお話でした。

そして最後にお話しいただいたのは、中国の方と、楽しく一緒に仕事をし、お付き合いをする時にはどのようにすればいいかということです。それは「礼・義・趣」だそうです。

やはり基本的に大切なのは礼だそうです。人間関係は礼をもってきちんと付き合う事が非常に大切だということです。

義という言葉は、定義が難し

いそうですが、武田先生がお話しされたのは、義は義理人情の義、義兄弟の義ということです。信頼関係、一つの事を共通の目標を一緒に追及していく、その時に信頼し合って義をもって行動する。中国でネットワークを広げて、ビジネスを楽しくしていくための大切なステップだということです。

最後の、趣と言うのは趣味の世界についてです。山登りでも、ゴルフでも水泳でも何でもいいのですが、これは長くお付き合い

したい人に対しては共通の趣味を見つけていくことが有意義だとのこと。礼を尽くして接し、義を以て信頼関係ができ、さらに堅苦しくない趣味の世界を共有する。ここまで行くと、本当に中国で仕事をするのが楽しくなってくるそうです。武田先生はそのような気持ちを持って16年間中国に駐在されていたそうです。最後に武田先生は、中国で仕事される時に、この

講座の内容を頭の片隅にでも留めてもらえれば、大変ありがたいとお話を終えられました。
(2015年5月16日 当日の様子)



日本語科2期生の張献さんより20万円のご寄付を頂きました。ご寄付は、昨年度創設された「竹中憲一基金」に積み立てさせていただきました。その際にいただきましたお手紙をご紹介します。

日中学院 吉田院长

您好！请原谅我只能用中文回复，因为电脑里没有日语输入法，另外离开日本多年，日语的写作没有把握了。其实我1987年去日本时没有一点日语基础，虽然在日中学院学习两年，毕业时成绩还是不理想的。但是我在日中学院学到的不仅是语言，更重要的是日本社会的活力和日本人民的精神。这使得我日后能够顺利地在早稻田大学学习国际法，以及到哈佛大学做研究生。我们那批留学生也是非常刻苦的，因为我们全体都是自费，没有拿国家的一分钱，就连後樂寮我们也没有资格入住。我下午下了课就直奔打工的新大谷饭店洗碗，第二年在秋葉原的Laox做销售，因为是免税店，留学生英文中文甚至上海话都流利，销售额超过日本职员好几倍。于是我们卖货，日本人提货打包，大家就像兄弟一样。。。。。。我记得学校组织去日中友好的加须市，我被分配到做酱油的人家。几天下来看着辛苦的亲手酿制的酱油，眼泪夺眶而出。我保留着我们在富士山顶与加纳老师、竹中老师的合影，日中学院的全体老师和日本同学都是那样亲切！

1992年我获得硕士学位离开了日本，之后虽然再也没有回来过，但是永远不会忘记那些岁月！日中学院—我的母校，我感谢您！我们这些学生现在基本都退休了，我也离开了律师岗位，重新投入自己喜爱的小提琴事业。就在日中学院毕业式上我还表演过啊。后来跟随早稻田大学交响乐团，去欧洲美国巡演，一路上得到早大老师同学的照顾，令人难忘！

日中学院培养了我，我要回报亲爱的母校。我编辑的（国际组织通览）大型辞书已经赠送给母校。这两年中国的国际留学展，我专程去看望来自母校的老师们。此次校庆活动，因为个人原因，无法出席，非常遗憾。

为表示对母校的怀念和支持，我建议日中学院也像国际上很多大学那样，成立校友基金会。虽然我们不是富翁，但是我们热爱自己的母校，愿意为她的建设尽自己的绵薄之力。这次我愿意捐款人民币1万元。在校庆活动时也可以当场募捐，相信我的同学们会为母校的发展慷慨解囊。也希望基金会能够发给大家一个捐款证书，以便我们永久保留并不断为学校捐赠。

1995年我回中国后即担任了欧美同学会-中国留学人员联谊会的法律顾问，至今已经20年了。这个组织有留日分会、留美分会等13个分会，共1万多名会员。今后学校如果有兴趣，我可以介绍与他们建立联系，在中国或者日本开展各种活动。

我相信未来肯定会有机会重返母校，那时一定去看望校长您和各位老师的。衷心地祝愿您们身体健康，祝愿日中学院越办越好！

日中学院日本語科第二期毕业生
张 献

2015年北京の「特別」

高木美鳥(本科2年担任講師)



今年の北京留学はとてもきれいな青空と大きな白い雲に迎えられた。北京の友人曰く、2、30年ぶりの空という。最近では珍しい空だ。それも約2日、そのあとはまた例年通り、白っぽい少し霞むような空続き。いずれにしろ今年も暑い北京である。3週間目を迎える頃には最高気温38～39度となった。照り返しを考えると40度を超える殺人的な暑さだった。「あつい」といえば今年は抗日70周年なので、その意味でも中国は「あつい」のではと思っていたが、人民大学の周りでは特に何も無い。7月7日を迎える頃、テレビは例年通りの抗日のドラマや映画のほかに、川島芳子のドキュメンタリー番組、通常のニュースの時間帯に抗日の特集が追加され、書店では抗日を記念した書籍が平積みとなっていたが、市井の雰囲気は冷静であった。ただ抗日70周年のこの年を記念して北京京劇院が約30年ぶりに現代京劇「智取威虎山」「杜鵑山」を復活させ、日中学院日本語科2期卒業生の張献さんの計らいで、この演目のリハーサルを見せていただけたことは思いがけない特別なイベントであった。この公演は今年、北京でのみ行われるもので中国にとっても特別。国家第一級京劇俳優さんと知り合うこともでき、その方が主演される水滸伝『野猪林』にも招待していただいた。われわれのほか全員中国人の観客で、俳優と共に小声で歌う人や「好！」と叫ぶ人などがある賑やかな環境でお芝居を見るのも、特別であった。北京の特別といえば、今年6月1日から禁煙令が出されている。きれいな青空はそのおかげかどうかはさておき、この禁煙令の広告がなかなか面白い。“为北京点赞”、“无烟味，享美味”、“你有控吗?”、“朋友一生一起走，派对烟霾不再有”。意味はおわかりになるだろうか?このうちの一つは「ひまですか」をもじっていて、最後の一つは周華建の『朋友』という歌詞の一節だ。中国語はこうした言葉遊びが面白い。



少し脱線して言葉のお話をする。日本同様、中国にも新しいものはどんどん入っており、例えば“华夫饼”“凯撒撒拉”“大白”などもそうした言葉だ。先の2つは音訳、最後の1つはイメージからだろうが、さて何だろう。「ワッフル」「シーザーサラダ」「ベイマックス」が答え。アイスクリームのワッフルコーンは“华夫控”。北京では『ベイマックス』がとても流行っていて、あちこちでその雪だるまのような姿の人形やら、プリントしたTシャツやら、関連グッズをたくさん見かける。今年の学生の中にたまたま熱狂的ファンがいて、その影響を受けて余計目についたのかもしれないが、その彼女がさまざまな“大白”を購入して持ち歩いているおかげで、中国人に“啊!大白!”と声をかけられ、おかげで“大白”がつなぐ友好となったのも「特別」と言えるだろう。

今年は人民大学の留学生宿舎がわれわれの宿舎を除き一斉に改築となり、居住していた長期留学生はみな部屋を出され、あちこちの教室や残ったわれわれ宿舎の厨房などいたるところが彼らの荷物置き場となった。そのため宿舎の厨房が使えず、電子レンジが使えなくなったが、お腹をこわした日中学院の学生のためになんと!電子レンジを貸していただいた。万一のために携帯していったレトルト食品が食べられることとなったのである。また到着時からすでにわれわれのために冷蔵庫も用意されていた。ありがたい「特別」である。また「特別」と言っては失礼だが、宿舎にはほぼ毎日掃除が入り、シーツの交換も行われた。

いずれにしろ、参加した学生にとってこの留学自体がすべて「特別」。5週間は中国の気候、生活、中国語のシャワーに慣れるのが精一杯だと思うが、参加者それぞれに特別な時間であったことは間違い無いと思う。



日本語科に短期留學生が来ました！

日中学院では、今年初めて中国から6名の短期留學生を受け入れました。7月16日(木)から8月14日(金)まで、約1ヶ月の日本滞在となりました。滞在中は、日本語の学習はもちろんのこと、都内見学や本科研究科との交流などを行いました。

(本科研究科との交流会の様子)



別科合同朗読大会のお知らせ

2015年10月3日(土) 13:00～16:00

場所：日中友好会館 大ホール

恒例の別科合同朗読大会が行われます。日頃の学習の成果を発表する為、多くの別科生が参加します。

当日は、講師による模範朗読などもあります。どなたでもご見学頂けます。多くの皆様のご観覧をお待ちしております。また、合同朗読大会に参加された方の中から数組例年日中学院文化祭に参加されます。

今年の文化祭は10月31日(土)です！



3日で中国語の挨拶・自己紹介ができるようになる!! 高校生のための中国語無料講座

英語の他にもう一つの外国語＝中国語を身につけたらカッコいい!と思いませんか。

3日間で中国語の基本的な発音、簡単な挨拶、自己紹介やおもてなしの表現などを通して、中国語の「いろは」を学びましょう。中国語に興味のある高校生の皆さん、お気軽にお申し込みください。

日 時：9月12日、19日、26日(土)13:00～15:00 (1日2時間/全3日間)

受講料：無料 / 対象：高校生で中国語が全く初めての方からOK

図書室だより

いよいよ秋の大型連休がやってきますね! 中国に旅行される方もいらっしゃるかと思います。図書室には、「地球の歩き方」をはじめとした旅行ガイドブックのほか、旅行エッセイも所蔵しています。どうぞご旅行前にチェックしてみてください。さて、今回は寄贈書のご紹介です。

<今月の寄贈書から>

- 《旅行, 是為了找到回家的路》(新刊)
- 《歡迎來到 東京食堂》

新井一二三 著 大田出版(台湾)

※本学院元別科生で、中国語コラムニストの新井一二三(林ひふみ)さんより、本年7月出版の新刊書と、昨年3月に出版されましたご著書の2冊をご寄贈頂きました。

新井一二三さんは、大学生の時から中国語を学びはじめ、その後、香港や台湾のメディアにコラムを寄稿し、主

に台湾でエッセイが多数出版されています。新井さんの書く文章は、わかりやすく、内容もおもしろく、中国語が母語でないのに中国語力が高いと現地では評価されているようです。さて、この7月に香港で開催されましたブックフェアにて新井一二三さんの講演会が開かれ、その講演会にて新井さんは日中学院時代のことについても語っていらっしゃいます。流暢な普通話で講演する新井さんの講演会の映像をぜひご覧ください。

講演会の動画はこちら：(下記のタイトルでネット検索して下さい)

☆香港書展2015 言論的自由港与日籍中文作家的诞生 (Youtube)

☆回歸後首次回歸 新井:為港青驕傲 (こちらはニュース報道記事です)

また、下記の皆様からも図書とDVDのご寄贈がありました。誠にありがとうございました。

●新井俊夫様より

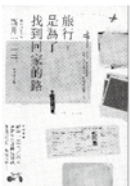
『留學生派遣から見た近代日中關係史』

『周恩来と日本』

●匿名希望様より

DVD『グリーン・ディステニー』(卧虎藏龙)

DVD『単騎・千里を走る』



9月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
		1 ●本科授業再開/ 倉石奨学金 募集開始	2	3	4	5 ●倉石奨学金 募集締切
6	7 ●本科2年生 個人面接	8	9 ●倉石奨学金 募集発表	10	11	12 ●高校生のための 公開講座 (1日目) ●別科公開講座 入門・基礎 (13:00～)
13	14	15 ●中国語検定 受付開始	16	17	18	19 ●高校生のための 公開講座 (2日目)
20	21 ●休日	22 ●休日	23 ●休日	24	25 ●別科公開講座 入門(18:45～)	26 ●高校生のための 公開講座 (3日目) ●別科公開講座 入門・基礎 (13:00～)
27	28	29 ●日中国交回復 43周年	30 ●別科258授業 最終日			

●10月の日中学院

- ・1日…本科16年度推薦入試受付開始
- ・2日…別科公開講座 入門・基礎(18:45～)
- ・3日…別科朗読大会

- ・5日…別科259期授業開始
- ・13日…本科短縮授業(～30日)
- ・15日…中国語検定受付締切
- ・21日…本科文化祭集中練習(～22日)

- ・27日…安藤先生命日
- ・30日…文化祭りハーサル
- ・31日…文化祭

○入学金無料キャンペーン!

第259期(2015年10～12月)限定で、すべての別科講座をお申込みの方を対象に通常10,000円の入学金が**無料**となります!

東京オリンピックへ向けて、中国語の勉強を始めてみませんか? 詳しくは案内書をご覧ください!

☆10月開講初心者コース

- ・早朝週2回クラス(月・木 7:30～8:30)
- ・午前週2回クラス(月・木 10:00～12:00)
- ・土曜週1回クラス(土 13:30～15:30)
- ・夜間週3回クラス(月・水・金 18:45～20:45)
- ・夜間週2回クラス(火・金 19:00～20:45)
- ・夜間週1回クラス(水 18:45～20:45)

☆公開講座

- ・中国語初心者コース 9/12(土)、25(金)他
- ・基礎コース(学習歴:週2回1年程度)9/12(土)他

☆レベルチェック

既習者の方を対象に、講師が面談形式で授業をご案内します。お電話にてご予約下さい。

☆授業聴講

実際の授業をご覧頂く事が出来ます。授業の日程等お問い合わせ下さい。



●自習用の教室をご案内しています。

皆様に自習室としてご利用いただける教室を1階入口掲示板でご案内しています。是非ご利用ください。

●募集中です。

8月号でお便りをご紹介しました、日中交流会では、会員を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

袴田 和憲 E-mail: kanzukun07_26@yahoo.co.jp

●冊子『日本がおこなった戦争をここに刻む11章』が届きました。

日中学院倉石賞の受賞団体、映画『侵略』上映委員会が作成した冊子です。戦後70年に際し、もう一度あの戦争を見つめなおしたい、過去と向き合うことは未来をみつめること、との思いで作成したとのこと。1、日本がおこなった戦争は、ほんとうに侵略戦争だったのですか? から始まる、全部で11章から成るものです。1部200円でおわけすること。見本誌は、学院ラウンジ、図書室でご覧いただけます。

申込先 e-mail: m.m120223@cy.tnc.ne.jp

●訃報

去る7月15日丹藤佳紀先生がお亡くなりになりました。丹藤先生は、元読売新聞記者でもあり、日中学院で本科社会科をご担当頂いたこともあります。また、2013年4月には日中学院校友会主催の講演会でご講演頂きました。講演の内容は校友会HPよりご覧いただけます。心より御冥福をお祈りいたします。